

### 社員教育 (2)

## 職場風土を良好にする 「トレーナー・トレーニ 研修制度」

(株)CDM コンサルティング  
代表取締役 / 研修講師  
林 三津子

「第二新卒」という言葉を、ご存知だろうか？  
前回、「ブログ型 新入社員」の話をしたが、今年も新入社員が入社して、はや5ヶ月が経過しようとしている。しかし、やっとの思いで採用した新入社員も、残念ながら、わずか数ヶ月で辞めていくケースも多い。このように、僅かな期間で辞めていく新入社員を、「第二新卒」と呼んでいる。

数年前まで、第二新卒は「長続きしない人間」採用してもまた辞めるのではないかと等と思われ、世間の印象が悪かった。しかし最近では、「社会人としての一般常識が一応備わっているのだから、新卒のように1から教えなくてすむ」と等と、時代と共に世間の考え方も変化し、これら「第二新卒」達が、一躍、脚光を浴びる時代となった。

そして、第二新卒の争奪戦がはじまり、ネット上では「第二新卒の転職支援！」、「第二新卒の求人情報！」等といったサイトも多数出没し、第二新卒を狙ったマーケットが拡大してきている。

一方で、せっかく採用した新入社員が、これといった理由もなしに、研修期間終了後まもなく会社を辞めていき、経営者や人事担当者を悩ませている。そして、「採用しても、直ぐに辞めてしまうのだから、どうせ教育をしても…」等といった風潮が生まれ、採用や教育に対し、意欲をなくしている人事担当者も少なくない。

新入社員の方でも、「職場の人間関係になじめない」、「仕事のやり方を教えて貰えない」等といった悩みを抱え、結果、上司に相談することもなく(そのような職場環境、制度もない)、あっさり退職していく。このままでは堂々巡りで、現状は一向に改善されず、真の人材(人財)も育たない。

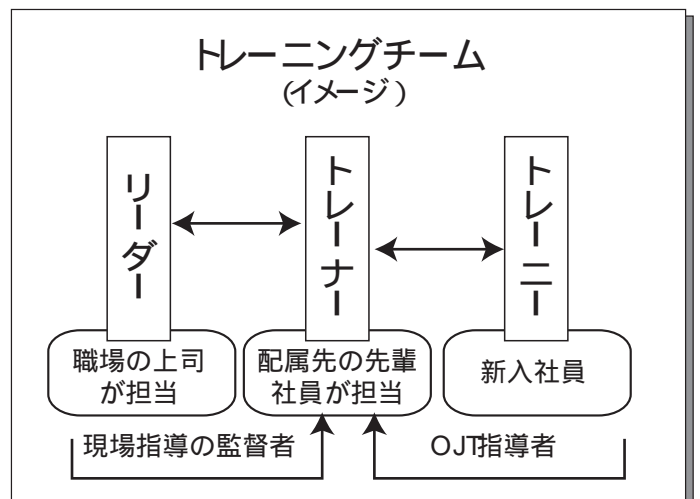
それを改善することは並大抵なことではないが、その改善策の一案として、職場環境を改善し、新入社

員の現場OJTを主眼においた教育プログラム「トレーナー・トレーニ研修制度」を実施してみてもどうだろうか。いわゆる「徒弟制度」のような教育法であり、昨今、注目を浴びている教育プログラムの一つである。

いい人材(人財)を獲得するには、人材教育を徹底するための、体系化した教育システムが必要である。とりわけ、ものの考え方や行動パターンが定着する、入社後3ヶ月間の教育は特に重要であり、「トレーナー・トレーニ 研修制度」は、職場風土改善にも最適と言える。

以下は、その進め方の概要である。

- 1)新入社員及び、先輩社員のモラルとモラール(やる気) スキル(技能)向上のため、「トレーニングチーム」を組む。
- 2)新入社員の入社直後に、「導入研修」を実施し、基礎教育の徹底を図る。
- 3)円滑なOJT(現場指導)を進めるために、「チーム」は、下図のような「トレーニングリーダー」と「トレーナー」そして「トレーニ」で構成される。ここでは、トレーナーを中心とした「トレーニング・プログラム」が用意されている。



4)トレーナーの現場配属後、トレーナーはトレーニ  
ーに対し、「パートナー制」によるOJT指導を、トレー  
ニングシートを基に実施する。

5)その進め方は、トレーナー1名に対し、トレーニ  
ー1~4名(程度)とし、その期間は、2週間~1ヶ月  
とする。

6)リーダーは、OJTの期間、トレーナーよりOJTの  
経過を、レポートにより報告を受ける。リーダーは、  
レポート確認後、所感とサインを、毎回、行う。

このようなトレーニングを行う中で、トレーニ  
ーである新入社員は、現場での基礎的なことを先輩社員か  
らOJTで学ぶことにより、早く会社に馴染み、帰属意  
識も芽生える。またトレーナーである先輩社員も、新  
入社員をトレーニングすることにより、基礎的なこと  
を振り返るよい機会となる。そしてなによりも、上司↔  
先輩社員↔新入社員間の信頼関係「ポール」が  
高まり、職場の環境整備に大きく寄与する。

「が盛んになる一方で、社員はヒューマンな人間  
関係を求めている。第二新卒は、そのような時代の”  
象徴”かもしれない。このさき“第二新卒”を生まない  
ためにも、このような人間味溢れた「研修プログラ  
ム」が効果を発揮する。

## 法人協会ニュース

### 農業後継者育成事業【我発見塾】のこ 案内(再案内)

当協会会員の(有)コッコファームさん(熊本県農業法人  
協会会長)が培ってきた事業ノウハウをより多くの方に公  
開するために設立された「実農学園」で、農業後継者育成  
のための実践的な研修会「我発見塾」が開催されます。

これは後継者や新規就農者が不安や悩みを克服して将  
来の夢を語る仲間を作り、安心して事業承継してもらう  
ための、ワークショップを中心とした参加型の研修です。  
悩みを夢に変えたい方は、是非ご検討下さい!

<「我発見塾」の日程等>

日時:9月15日(金)~16日(土)

場所:実農学園

(有)コッコファーム内 熊本県菊池市下河原 2818)

参加費:10,000円(1人)

募集人員:20名(定員になり次第締切)

詳細は、下記まで。

実農学園 横山孝一 学園長 TEL:0968-24-0007

ホームページ: <http://www.cocco-fam.co.jp>

参加ご希望の方は申込書をFAXします。

締切間近!  
お申込はお早めに。

## 平成18年度 第2回 産地と実需者との 国内野菜展示・商談会」について

去る7月25日、加工・業務用野菜の国内取引を拡大す  
るために、農林水産省と農畜産業振興機構の共催によ  
り、農林水産省講堂において、第1回「産地と実需者との  
国内野菜展示・商談会」が開催されました。

この展示・商談会では、当協会会員(5社)を含め、農業  
生産法人、生産者団体、卸売会社など28団体が出展し、  
外食・中食をはじめ、給食事業、カット野菜事業、食品製  
造・流通業等119社が来場。活発な展示・商談が展開さ  
れました。

農林水産省と農畜産業振興機構では、好評を博した第  
1回に続いて次のとおり第2回を開催することとしていま  
すので、ご興味のある方は、積極的なご参加をお願いいた  
します。(出展は無料です!)

日時:平成18年11月10日(金)

10:00~16:30(予定)

会場:東京都立産業貿易センター浜松町館  
「3階展示室」

内容:

(1)展示・商談会

出展者プレゼンテーション

野菜展示と試食 商談

(2)加工・業務用野菜セミナー

(3)交流会(懇親会形式)

なお、詳細については、明らかになり次第、随時ご連絡  
いたします。

## こだわり和菓子の素材、求む!

岐阜、高知、島根の熱意ある老舗和菓子屋から、新し  
い和菓子を作るための素材を探しています」という相談を  
受けました。少量でも、期間限定となってしまっても良いの  
で、和菓子に使える特色ある農産品(例えば果樹や芋  
等々)を求めているとのこと。

新しい和菓子が誕生した時は、東京の伊勢丹で発表・  
販売のチャンスも!

作り方や味などにこだわりある品をお作りの皆様、是非  
事務局までご連絡下さい。

## アグリビジネス経営塾 第306号

本紙に関するお問合せは下記までお願いします。  
社団法人日本農業法人協会

(HP <http://www.hojn.or.jp/>)

TEL:03-5156-0365/ FAX:03-5156-0366

MAIL: [jku@hojn.or.jp](mailto:jku@hojn.or.jp)

©(社)日本農業法人協会 2006

本紙掲載記事の無断転載を禁じます。